

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1296100028		
法人名	社会福祉法人天祐会		
事業所名	グループホーム天羽苑		
所在地	千葉県富津市不入斗224-1		
自己評価作成日	平成30年2月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ウェルビーイング
所在地	千葉県木更津市東中央1-1-13マコーラ第一ビル6階604
訪問調査日	平成30年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

都会には無いのびのびとした自然の環境の中で、利用者様には毎日時間に追われる事なくのんびりと暮らしています。
 当苑ではその自然を皆様に感じて頂きながら散歩は毎日の日課になっています。
 『自分の力で自分らしく生きよう』という目標に向けて安全に安心して過ごせる様、健康管理に気を配りながら支援いたします。

施設は自然に恵まれ、四季を感じる事ができる。利用者は地域を散歩し、田畑の近くを歩き、自然を満喫している。利用者は地域で自分らしく生きる為に、日々の生活の中で食事の配膳や下膳、掃除など出来る事を行い、自分の力を発揮している。運営推進会議では、市や地域の住民代表、警察署、利用者家族などを招き、現状報告、連絡、意見など頂き、有意義な会議にしている。年3回避難訓練を行い、消防署や警察署の協力関係を結んでいる。医療は主治医や居宅療養管理指導の契約を結び、健康管理を行っている。研修業者を招き勉強会を行い、知識を身に付け、レベルアップを目指している。地域の住民とふれあい、行事や子供達が遊びに来る。交流が盛んに行われている。管理者は自分の力を最大限に発揮し、利用者や地域と向き合っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念は会議に毎回全員で唱和しており、常に意識を持って業務にあたっている。	管理者、職員は法人倫理を会議で共有し、実践に繋げている。独自の理念「自分の力で自分らしく生きよう」を作った。利用者が地域で暮らし続ける為に、一人ひとり向き合い、支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の行事、祭礼等に参加や見学している。近隣の小学校・幼稚園とも交流したボランティアの方の歌や踊りを披露して喜ばれている。	地域の行事や祭礼に参加し、必要な役割を担っている。小学校や幼稚園の交流は盛んに行われ、招待されたり、訪問したりと関係を深めている。散歩や買い物に出かけ、近隣の人達との出会いは多く、地域の方々に認知症に対する理解や接し方などの話をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学生の見学の受け入れを行っている。総会や集まりの時には認知症のある方の理解や協力をお願いしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議では利用者様の状況やまた行事報告等を毎回行っている。意見や情報を頂きサービス向上に活かしている。	年6回の会議を行い、社会福祉課、区長、家族などの参加で行われ、利用者の状況や行事の報告が行われ、参加者の意見や要望などは、次のステップに向ける為の貴重な意見であり、サービス向上に向け活かしている。管理者は警察官へ参加の呼びかけを行い、協力関係を結んでいる。	運営推進会議の参加者が少しずつ増えているので、3ヶ月に1回、年4回にして、参加者をもっと増やす事で、増々意義の有る会議になるので、是非お願いしたい。参加メンバーに地域包括支援センターや、民生員等の検討をお願いしたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営会議に参加して頂いている。近くの派出所の警察官の方の参加も増え近況報告している。	市の担当者と協力関係を結び、課題解決や情報の共有など、理解や支援を頂きたいと考えている。会議に派出所の警察官に参加して頂き、認知症施設への理解を得る事ができた。警察官から詐欺状況や、徘徊、車上荒らしなどのお話があり、参考になっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修には積極的に参加し職員の質の向上に繋がるケアをしていきたい。	帰宅願望のある利用者に対して、見守りや声掛けを行い、自由な暮らしを支援している。個人に合わせ身体拘束のないケアの実践に努めている。研修を行い、質の向上を目指している。虐待は幅広い行為があり、不適切なケアが無いように、管理者は職員の指導に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体だけでなく言葉の虐待もある事を意識させている。管理者やケアマネジャーは介護現場に入り注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議や勉強会で学ぶ機会を持ちたい。また個々に研修の希望があれば参加させたいと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭での説明をし、書面でも承認を頂きトラブルにならない様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来苑時に利用者様のご様子を報告し、ご家族様と話す機会を設け要望や意見をお聞きしている。	利用者家族は運営推進会議や行事、訪問された時に、自由に意見や要望を話す事ができる。家族アンケート調査などで書くことも出来る。利用者の介護度の軽い人は、思っている事を話してくれる。運営推進会議に参加して頂き、関心を持つ事に期待している。管理者は関係作りに努め、何でも言える状態になっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日常業務の中で意見を聞いている。職員から出た意見・要望等は代表者に報告・相談している。	職員会議で利用者家族からの意見や、要望を話している。職員の気付きを大切にしている。勤務時間中でも気が付いた事は聞いている。管理者は改善点があれば、その場で注意を行い指導している。業者を招き、知識を得る為の勉強会を行う。法人の研修に参加、交流を深め、レベルアップに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設の巡回時に指導改善を指摘し、問題点や職員の要望や意見を聞いて改善に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時の研修を始め、段階にあった研修、または希望する研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部から招いての勉強会を行っている。また同一法人内の研修などにも参加して交流を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に見学や体験入居をして頂き、本人との面談を行う中で不安な事や要望等をお聞きしコミュニケーションをとっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や体験入居後に必ずご家族に状況を報告している。面会時にも近況報告をして要望や意見をお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の身体状況や精神状態を把握しご家族の意向を聞き取りより良い支援が出来る様に務めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	『掃除機掛け』『食器拭き』『洗濯干し』などを分担して手伝って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と職員とで一緒に利用者様を支えるように連絡を密にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族には面会や外出・外泊などの機会を作って頂ける様お願いしている。	家族が訪問してくれる。利用者は家族が帰る時は辛い表情をするが、管理者はそれでも家族に来て欲しいと願う。地域に買い物や食事、馴染みの場所へ出かける。小学校の子供達や園児や近所の人、警察官など継続的な交流がされ、ネットワークを広げている。利用者同士のつき合い、お茶を飲む、食事や会話を楽しむ。職員は見守りながら関係を保っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テレビ前にくつろげる様にソファを置いておくこともあり利用者様同士が会話し楽しまれている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近くの施設に入所となる時は面会に行くように心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者会議を行い、ご本人の意向や希望・要望等をお聞き確認している。	担当者会議で、利用者の意向を聞いている。生活歴や本人の全体像を知る為に、家族や関係者から情報を得ている。本人がどの様に暮らしたいのか、何をしたいのか、本人の視点に立ち把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報や日常会話の中から今までの生活内容を把握し混乱の内容に支援し継続している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体面・精神面の状況を日々観察し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議にてその都度、職員から様子や意見を聞き確認しあう。問題点は解決できる様検討している。	ケース会議で一人ひとりの様子を職員から聞き、検討している。日中、夜間の様子を記録し、申し送りを行っている。一人ひとりと向き合い、モニタリングを行い、介護計画の見直しを行っている。職員は情報を共有し臨機応変な対応をするように心掛けている。	職員不足の影響で利用者の健康面や医療面、安全面について心配な点を、職員全員で把握して乗り切って、頑張ってもらう事に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様個別のケースへ日中・夜間の様子を記録している。申し送りした上で再度変わったことや気づいた事を記録して見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	モニタリングを通して変化や状況に合わせてご本人の希望にあう様支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事(祭礼やグランドゴルフ等)に参加して交流を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	居宅療養管理指導の契約を結ぶ事で主治医及び薬剤師との相談や健康管理がスムーズにできている。	主治医は月2回訪問し、薬剤師とは薬の相談が出来る。居宅療養管理指導の契約を結び、利用者が安心して医療を受けられる。看護師とは連携を図り適切な医療に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は利用者様の身体・精神的状況を把握し変化があれば早急に対応し看護師への相談にてご家族様に連絡するように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は様子を見に行く、電話連絡する等で状況を確認しソーシャルワーカーとも話し合いをし今後の生活を決定している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明はしている。急激な変化や医療的問題が見られる時は話し合いの場を設け、次に向けての方向性を考え共有して取り組んでいる。	契約時に家族に納得してもらっている。状況が変化した場合は、家族や関係者と話し合い、これからの方針を決めている。病院や施設に行く場合が多い。緊急の場合でも常に主治医に相談し、対応している。緊急マニュアルを作成しわかりやすい場所に掲示している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成して職員の目に付くところに掲示している。また緊急時の研修も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震・災害対策マニュアルが作成してある。また自主訓練や消防署立会いによる訓練もおこなっている。	訓練を年3回実施。火災の訓練では消防署の参加で指導を受ける。地震の訓練や夜の訓練は職員が少なく大変である。中庭に避難。職員との連絡体制が大切。地域の人や警察官などの参加で協力を得る。人の和で訓練を行っている。備蓄、水、食料など準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	優しい声掛けや傾聴を心がけ受容的な姿勢で接している。	利用者一人ひとりを尊重し、さり気ないケアに取り組んでいる。その人らしい尊厳ある姿を大切に、傷付けないよう心掛け、声掛けには注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事のメニューの希望をお聞きして取り入れている。会話の中から汲み取り、本人の発言を待ち自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家庭的なサービスが提供でき居間までの生活暦と変わりなくご本人主体のペースを大切に自由にご過ごせる様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活習慣は変化させず、ご本人の希望に添えるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の形態に合わせて提供している。テーブル、食器拭き、配膳や下膳も個々に行っている。	食事は利用者の好きな物を食べる。一人ひとり自分の好みを話す。季節の食材を取入れ、食事への関心を引き出している。テーブルを拭き、配膳や下膳、個々に合わせた活動を行っている。外食は出前を取るのを楽しみの一つになっている。水分補給に注意し、摂取量を確認している。食後は口腔ケアに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者様にあった水分摂取量を確認している。おやつの際に野菜ジュースや果物等も提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、朝、夕と行い見守り確認を行っている。また義歯を使用している方は夜間洗浄をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄パターンを作成して確認し声掛けやトイレ誘導を行い自立または現状維持できる様に支援している。	排泄を確認し、一人ひとりに合わせた自立支援を行っている。薬に頼る場合や、水分補給、ヨーグルト、牛乳などを飲む。個人差があり対応が難しい。体操や運動を毎日規則正しく行う。体を動かす事の大切さ、継続的に予防する支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックも個々に行い排便の状態を把握し、主治医や薬剤師に相談している。毎日適度な運動(散歩や体操)をして便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	可能な限りご本人の希望に添えるように心がけている。	入浴は1日置きに入る。自分で入浴できる人には、見守りを行い、安全を確保しながら、習慣や好みを聞き、個別の支援を行っている。清潔を保持し、満足や体調改善、利用者の生活習慣に合わせた支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれのペースや生活パターンに合わせて休息できる様な環境づくりを心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に個人ファイルを作成してお薬手帳を管理している。また薬剤師からもアドバイスを受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に居室の清掃以外にも共有スペースの掃除や他の家事も手うだて頂いている。散歩やドライブ等を取り入れて気分転換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行ってみたい場所を個別にお聞きしている。ご家族との外出も面会時にお願している。	暖かくなると毎月、行事で行かない希望の場所を聞いている。季節に合わせた桜や水仙を見に行く。富津公園や展示会など、地域や人々の交流がある。買い物に出かけ、自分の好みの物を買う。職員や家族と一緒にいき、気分転換やストレスの発散、時間の許す限り行き、日々暮らして行く上での張合いになっている。	職員不足や介護度の差があり、外出の支援は困難な状況ではあるが、冬は室内で日光浴や、体操や歩行の工夫をお願いしたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お預りしているおこづかいの中からおやつ時に販売機にて飲料を購入する事もある。時には移動販売のパン屋を利用して購入する事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人がご家族に連絡したい時は事務所に来て電話をかける支援をしている。また手紙が届いたときはご本人にお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外出時やボランティア来苑等の際に撮った写真をホール内に掲示している。クリスマスやお正月等の飾りつけを行って季節感を取り入れている。	玄関からリビングまでバリアフリーで安心である。リビングは広く、壁に行事の写真を掲示してある。ソファでテレビ鑑賞を楽しむ。テーブルで食事、皆で楽しく過ごす。洗濯物を干すなど、自分の力を発揮して出来る事を行い、一日を過ごす。ガラス戸から外の桜やみかんの木を見る事も出来る。季節感や生活感があり、居心地良く過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースで過ごす事が多い為、『自分の席』を確保している。テレビ近くにソファを配置して利用者様同士が交流しやすい様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた物やご家族が面会時に持って来た物を自由に置いたり、使用している。	利用者に合わせた居室作りを行っている。家族が持ち寄り飾ったり、置いたりしている。居室は自分に合うよう工夫している。出来る事を行い清潔を保ち、過ごせるよう心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事、出来ない事を見極め個々の能力に合わせて意欲、目標につながるように心がけている。		